

①芸術文化活動の振興、②芸術文化団体の育成等をあげて、美術・音楽・演劇・文学等の芸術文化活動を行なった。

予算は、36年度大中に増額されており本年はほぼ同額の590万円を計上し、東北においてはもちろん最右翼であり全国的にも上位に位し、社会教育上きわめて重要である県民の文化的教養を高めるうえに一大飛躍をみせた。さらにへき地への文化導入の施策も研究しつつある現況である。

2 第17回県総合美術展覧会

- (1) 期日 38.6.15~21
 (2) 会場 喜多方市厚生会館、第一小学校講堂
 (3) 応募ならびに陳列数 総搬入 691点
 内訳

	公 募		招待委嘱	無鑑査	陳列計
	搬入	陳列			
日本画	23	19	17	2	38
洋画	288	148	29	13	190
彫塑	59	37	8	5	50
工芸	35	34	16	—	50
書	163	109	31	1	141
計	568	346	102	21	469

(4) 入場者

一 般	団体(学校)	計
6,091	4,542	10,633

(5) 入賞者

- 文部大臣奨励賞 彫塑 本田道子(東京)
 県美術賞 日本画 安部泰山(塩川)
 洋画 船山一衛(平)
 田子英長(東京)
 武藤信義(猪苗代)
 工芸 石井久夫(河東)
 書 渡辺絃川(三春)

(6) 審査員

- 酒井白澄、須田珙中、中野蒼穹(日本画) 春日部たすく、山川忠義、荒川三郎、若松光一郎、鎌田正蔵、佐藤辰治(洋画) 鈴木仁亮、三坂耿一郎、本田晶彦(彫塑) 照井蔵人、大竹五郎、植木正子、針谷三男(工芸) 安藤搦石、中沢昴雲、藤本正(書)

(7) 効果 本県美術界の登龍門といわれる県展は、広く県民の美術振興を目途として17回展を喜多方市において開催した。

喜多方市当局、在任作家の協力で盛会をきわめ、本展が基礎として秋には「喜多方美術協会」が設立されてその第1回展が行なわれるなど、地方文化の向上に大きな

役割を果たした。

3 第16回県文学賞

(1) 応募数

区 分	小説	詩	短歌	俳句	計	青少年
38年度	41	14	32	23	110	6
37年度	30	22	30	17	99	6
36年度	33	19	30	14	96	5
35年度	53	23	33	20	129	10

(2) 審査員

荒正人、富沢有為男、平井博、田中冬二、川村重和、天野竜雄、加藤楸邨、新城杏所、道山草太郎、佐藤民宝、松田吉与

(3) 受賞者(7ページ参照)

4 第17回県合唱コンクール

県合唱連盟、会津若松市、会津若松市教育委員会、朝日新聞社と共催にて実施した。

(1) 期日 38.10.6~7 高校の部 一般の部

(2) 会場 会津若松市市民会館

(3) 参加団体

高校の部 男声5、女声13、混声15

職場の部 4、一般の部 12、大学の部 1

(4) 審査員 中田一次 山本金雄
 荒木宏明 沖不河止

(5) 入賞

部門	最優秀	優 秀
高校	福 女	会津農林、湯本、郡山女、本宮、会津女
職場	国鉄郡山	玉川機械
一般		会津混声、郡山混声、福島グリー、FMC、グリーあかべこ、平FG
大学		福大経済学部

5 社会教育指導者合唱講習会

(1) 趣旨 婦人会や青少年団体の社会教育活動と婦人・青年学級の学習活動を効果あらしめるため、合唱をどう取り入れるかの方法の研究と、身近かな歌の練習をして今後の実践に役だてる。

(2) 期日 38.8.30~31

(3) 会場 郡山市児童文化会館

(4) 講師 全日本合唱連盟理事 秋山日出夫
 作曲家 坂本 良隆

(5) 参加者 東北・北海道の婦人・青年団の合唱関係者、婦人・青少年教育担当者と団体指導者 244名参加

(6) 実践発表 郡山混声合唱団指揮者 鈴木武司
 (私たちはこうしてグループ活動を楽しみました)